

自主臨床研究

栄養発育研究グループ

小児潰瘍性大腸炎診療における尿中プロスタグランディンE 主要代謝産物の有用性の検討

実施期間	2022年6月30日
研究機関	他施設共同研究
研究目的	潰瘍性大腸炎（以下UC）は、大腸の慢性炎症性腸疾患である。究極的な治療目標は、症状がない状態を維持し、さらには内視鏡的に炎症所見が認められない状態である”粘膜治癒”を達成することである。臨床症状（血便、腹痛など）がない臨床的寛解状態でも、内視鏡を行うと粘膜に炎症所見を認めることがある。しかし頻回な内視鏡検査は、小児において負担となるため、内視鏡の代替となるバイオマーカーが開発されてきた。そのなかで、尿中プロスタグランディンE主要代謝産物（以下PGE-MUM）がUCの内視鏡所見、組織学的所見を反映することを我々は、世界に先駆けて報告した。今回、もう一つのバイオマーカーであり、最近保険収載された便中カルプロテクチン（以下便Cal）とPGE-MUMを比較し、どちらが鋭敏に内視鏡・組織学的所見と相関しているのかを明らかにするために本研究を計画した。
対象	6歳以上16歳以下のUC患者で、性別は問わず、前治療の有無も問わない。
プライバシーの保護	全ての症例において、研究対象者の通院施設において、本研究用のIDを用いて研究対象者個人に関する情報の匿名化を行う。IDと個人識別情報(患者番号などの症例 認識番号)との対応表は各参加施設の本研究の個人情報管理者の管理下に置かれる。

お問い合わせ先

大阪大学大学院医学系研究科 小児科学 木村武司（特任助教）

e-mail: tkimura※ped.med.osaka-u.ac.jp